

品名	2011年度 (実績)		2012年度 (見込み)				2013年度 (見通し)		コメント				
	10億円	伸び率%	上半期 (実績)		下半期 (見込み)		10億円	伸び率%					
			10億円	伸び率%	10億円	伸び率%							
総額	65,281	▲3.7%	32,159	▲2.0%	31,021	▲4.5%	63,180	▲3.2%	↑	64,001	+1.3%		
EX01 食料品	342	▲16.0%	174	+7.1%	199	+10.6%	372	+9.0%	↑	387	+4.0%	日本製品に対する各国の輸入規制が依然として残る品目もあり、全体として11年度水準を超えるものの、10年度のレベルにまでは回復せず。	主にアジアの高所得者層向けに、ほたてやりんご等の高級品需要が高まることから増加。
EX02 原料品	980	+2.8%	522	+8.3%	520	+4.6%	1,042	+6.4%	↑	1,096	+5.2%	金属鉱及びびくずの輸出は、米国市況の上昇によって日本製の割安感が生じており、下半期も11年度を上回る水準で推移。生ゴム(合成ゴム)は、足元で原料価格の下落から価格が軟調に推移。需給も緩和しており、下半期にかけて輸出量も減少。繊維用繊維及びびくずは、ポリエステル・アクリル化学繊維を中心に、合成繊維の最大消費地である中国での需要が低迷し、輸出額は減少。	金属鉱及びびくずの輸出は、中国やASEANからの引き合いが回復し、12年度を上回る水準で推移。生ゴム(合成ゴム)は、自動車向け需要の回復とともに増加。繊維用繊維及びびくずは、世界経済の復調とともに衣料品や自動車内装材向けの需要が持ち直し、増加。
EX03 鉱物性燃料	1,155	▲2.2%	586	▲12.8%	575	+19.2%	1,161	+0.6%	↑	1,500	+29.2%	震災が発生したことで製油所稼働が停止した11年度と比較し輸出数量は拡大が見込まれたが、頻発した製油所のトラブルや国内市況高海外市況安というマーケット状況もあり、11年度比はほぼ横ばいを見込む。	閉鎖される製油所があるものの、12年度にトラブルのため停止していた製油所の稼働再開が見込まれており、輸出数量は増加。
EX04 化学製品	6,556	▲6.7%	3,180	▲6.6%	3,090	▲1.9%	6,270	▲4.4%	→	6,230	▲0.6%	上半期はアジア向け有機化合物や欧米向け医薬品の減少が目立った。たとえ採算面で魅力薄くとも国内需要の低迷ゆえ輸出せざるを得ない状況もあり、回復感なきも下半期の輸出額はほぼ上半期と同程度となる見込み。	中国需要は増加を見込むが高揚感ある伸びは期待できず。生産設備の新増設計画を勘案すると中国等アジアの需要増が日本の輸出増につながらない可能性もある。輸出価格は、原油価格および為替相場の前提条件からほぼ横ばいと想定。総じて12年度並みと予測する。
EX05 原料別製品	8,668	▲2.8%	4,327	▲3.2%	3,840	▲8.5%	8,167	▲5.8%	↑	8,250	+1.0%	下半期は、世界経済減速や日中関係悪化に加え、汎用品分野の国内生産撤退、海外進出製造業による現地調達比率の引き上げを背景に減少。	世界経済の持ち直しに加え、円安効果もあって減少に歯止めがかかる。
鉄鋼	3,624	▲4.4%	1,795	▲4.4%	1,500	▲14.1%	3,295	▲9.1%	↑	3,380	+2.6%	下半期は、世界経済減速や中国での自動車生産減少を受け、数量が減少。価格も中国・韓国メーカーとの価格競争激化により下落し、総額も大きく減少。	12年度下半期に引き続き、中国向けが低迷することや、趨勢的な現地調達化の進展もあって、数量は減少。価格は13年度中に底を打つとみられることに加え、円安が追い風となって総額では増加。
非鉄金属	1,287	▲2.9%	634	▲4.3%	610	▲2.4%	1,244	▲3.3%	→	1,240	▲0.3%	下半期は、アルミは世界経済減速と日中関係悪化を背景に大きく減少。銅は現地調達化の進展に伴って日本からの輸出が低迷。非鉄金属全体では減少。	アルミは、米国・新興国向け中心に増加に転じるが回復力は弱い。銅は、アジアの家電需要が底堅く推移するが、現地調達化が続き減少。非鉄金属全体では横ばい。
織物用糸・繊維製品	633	+2.7%	312	▲3.0%	294	▲5.4%	606	▲4.2%	→	610	+0.6%	世界経済の減速、円相場の高止まり、汎用品分野の国内生産撤退、海外進出製造業による現地調達比率の引き上げを背景に減少に転じる見通し。	世界経済の持ち直しに伴い、輸出金額は高付加価値品を中心に下げ止まり。ただし、海外生産シフトの動きは続き、輸出回復の大きな足かせに。
非金属鉱物製品	896	▲5.6%	445	▲8.5%	429	+4.3%	873	▲2.6%	↑	901	+3.2%	ガラスの輸出は、数量ベースで堅調に推移するものの、価格の下落により通年で輸出総額は減少。セメントの輸出は、過去の供給能力削減と、復興需要による内需拡大の影響により輸出増加余力が限られるものの、価格上昇により輸出総額は増加。	ガラスの輸出は、景気の回復に伴い、太陽電池向け、建築向け、自動車向けの需要が拡大し輸出総額は増加。セメント輸出は、一時的に内需が拡大する中で輸出余力が限られるものの、価格の上昇が見込まれ輸出総額は増加。
EX06 一般機械	13,759	▲0.2%	6,442	▲7.5%	6,436	▲5.3%	12,878	▲6.4%	↑	13,500	+4.8%	海外景気の減速に伴い減少。インフラ投資、設備投資の低迷などから中国向けを中心に建設用・鉱山用機械や原動機が減少。日本メーカーの海外生産シフト、現地調達化の進展する電算機関連も減少を見込む。	世界経済の回復を受け、インフラ投資や設備投資が回復に向かい増加。
原動機	2,325	▲1.5%	1,117	▲2.4%	1,122	▲4.9%	2,239	▲3.7%	↑	2,268	+1.3%	世界経済の減速に伴い減少。主力の車両用内燃機関は、上半期に震災の影響の反動増などから増加したが、下半期は減少が見込まれる。	世界経済の回復を受け、車両用内燃機関などの増加を見込む。
EX07 電気機器	11,546	▲8.0%	5,799	▲2.1%	5,570	▲0.9%	11,369	▲1.5%	↓	10,614	▲6.6%	欧州経済落ち込みが、新興国へも波及し、全体的に低調な推移。また円高の継続も電気機器輸出には逆風であり、伸び悩みの一因となっている。	スマートフォンやタブレットPCにも一服感が出てくると予想。スマートフォンやタブレット以外に力強い需要は少なく、13年度上半期は落ち込む。
半導体等電子部品	3,472	▲14.7%	1,676	▲8.3%	1,620	▲1.5%	3,296	▲5.1%	↓	3,100	▲5.9%	スマートフォンやタブレットPCが伸長するも、デスクトップやノートPCは伸び悩み、全体的には低調に推移。	スマートフォンやタブレットPCにも一服感が出てくると予想。スマートフォンやタブレット以外に力強い需要は少なく、13年度上半期は落ち込む。
電気計測機器	1,222	+5.3%	644	+6.1%	626	+1.8%	1,270	+4.0%	↓	1,244	▲2.1%	スマートフォンやタブレットPC向けの需要が下支えして増加。下半期は欧州経済落ち込みが、新興国へも波及し、低調に推移。	スマートフォンやタブレットPCにも一服感が出てくると予想。これに伴い、測定器ビジネスにおける海外市場での需要減速が予想される。
EX08 輸送用機器	14,379	▲4.3%	7,541	+14.4%	7,260	▲6.8%	14,801	+2.9%	↑	15,026	+1.5%	上半期は、11年の大震災による大幅減の反動で自動車および自動車部分品の輸出が大幅に増加。下半期は、欧州向け、中国向けの自動車および自動車部分品の輸出が減少に転じる。船舶輸出は減少傾向が継続。全体としては、上半期の増加が下半期の減少を上回り増加。	自動車および自動車部分品の輸出は、米国向けが回復し、ASEAN向けも引き続き堅調。一方、欧州向け、中国向けの自動車輸出の回復の遅れ、船舶輸出の減少傾向の拡大から、全体としては微増にとどまる。
自動車	8,548	▲5.4%	4,586	+23.5%	4,517	▲6.6%	9,103	+6.5%	↑	9,462	+3.9%	上半期は、大震災による大幅減の反動で大幅増加。下半期は、11年度の急回復の反動減に加え、欧州向け、中国向けが大幅に減少。ロシア向けは堅調。	米国向けが回復し、ASEAN向けも引き続き堅調。一方、欧州向け、中国向けは低迷が続き、全体としては増加。
自動車の部分品	3,043	▲1.4%	1,650	+12.6%	1,513	▲4.1%	3,163	+3.9%	↑	3,284	+3.8%	上半期は、11年度の大震災による減少の反動で増加。下半期は、ASEAN向けが11年度のタイ洪水の反動で増加するものの、欧州向け、中国向けが大幅減少。	欧州向け、中国向けの減少傾向は継続するものの、米国、ASEANでの自動車増産により、増加。
船舶	1,992	▲7.2%	902	▲13.2%	830	▲12.9%	1,732	▲13.0%	↓	1,440	▲16.9%	物流の停滞から、本船引き渡しを遅らせる動きが見られる。	引き続き円高傾向の影響と国内・海外の景気低迷から輸出は数量・金額ともに減少。
EX09 その他	7,897	▲0.7%	3,588	▲13.1%	3,532	▲6.2%	7,120	▲9.8%	↑	7,398	+3.9%	世界経済が減速する中、約3割を占める科学光学機器が減少に転じ、全体の減少ペースも強まる見通し。	世界経済の持ち直しに伴い、増加に転じる見通し。ただし、科学光学機器の減少が続くため、急回復には至らず。
科学光学機器	2,112	+3.8%	1,060	▲2.3%	1,038	+1.0%	2,098	▲0.7%	↓	2,035	▲3.0%	EU向け的大幅減少に加え、中国及びシンガポール向け計測器等も減少。	中国及びNIEsの半導体設備投資の遅れから計測器等の輸出の減少が継続。

\*金額は億円単位を四捨五入、2012年度上半期の実績は確報ベース

\*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している